

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302008		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム みやま		
所在地	〒963-8041 福島県郡山市富田町字上の台60-13 (電話) 024-961-9660		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18人, 非常勤 0人, 常勤換算	12.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	4～10月 9,000 円 11～3月 12,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (19,950 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	55 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やぎぬまクリニック、しろくま歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に開設された木造2階建ての2ユニットのグループホームである。職員も利用者も定着し、落ち着いた雰囲気と共に笑いながら生活している。郡山インター近くの住宅街にあり、近くに商店街などはないため、買い物ツアーと称して、ドライブがてら買い物などに出かけている。管理者を中心に、理念達成のため話し合いながら支援している。職員は自分の意見が言いやすい雰囲気であり、会議の際に積極的に議論し、前向きに検討している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では特に改善点はなかったが、自己評価で改善しなければならないと判断したことについては早急に対応するよう努めたとのことである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は評価の意義を理解することから始め、職員全員で取り組んだため、いくつかの気づきがあった。職員の気づきを会議の際に話し合い、研修会の内容に盛り込み、実際のケアに反映していった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は定期的に行われ、回を増す毎に委員の意識が変わってきて、積極的な意見交換がされるようになってきた。会議の中で、事業所から「近くの養護学校等、地域との関わりを持ちたい」と提案し、委員からは「養護学校も地域と交流を図りたいと案内が届いているので、グループホームも参加してはどうか」と意見を出してもらい、サービスの質の向上に向けた取り組みにつながっている。運営推進会議で出された意見はできる限り取り入れて対応している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは個別の面談をし、利用者本位で支援できるように話を聞く時間を設けている。また、家族から出された意見などはスタッフ会議において話し合いがされ、運営への反映につながっていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くにある養護学校との交流をしたり、地域の行事に積極的に参加したりしている。また、ホームの行事にもお誘いするなどして双方向で交流できるように、地域密着型サービス事業所の役割などを認識しながら連携に努めていた。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念の中に「地域の中で安心して暮らし続けられるホーム」と表現し、地域密着型サービス事業所としての役割を反映して作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝夕の申し送りのときに復唱するなどして、職員同士が常に意識している。家族や来訪者にも見えるところに掲示し、理念が共有できるよう取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭りやバザーに来ていただいたり、町内会の廃品回収・クリーン作戦などに参加したり、双方向で交流できるよう配慮し、グループホームの理解を深めてもらう活動をしている。近くの養護学校の行事を案内していただき交流を始めた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回から評価項目が変更になったため、まず職員全員で評価項目の理解をし、自己評価は職員全員で行った。自己評価を実施し、普段気付かないことなどが見えてきたため、薬に関する研修をしたりして、評価を活かした取り組みにつなげた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は2ヶ月に1回、定期的に行われている。回を増す毎に積極的な意見が出されるようになった。民生委員の関わりやボランティアの願いをしたり、養護学校との交流をしてはどうかとか、介護難民が出るのではないかな等の意見が委員より出され、事業所として対応できることは取り組みを始めた。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月担当者から金銭管理報告とあわせて、利用者の日々の生活の様子を手紙に書き同封して送っている。家族の面会時に手紙では伝達できない部分の説明をするなど話し合いも大切にしている。運営推進会議には家族も参加している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、家族からの意見が出やすいよう話す順番を工夫している。家族から出された意見についてはスタッフ会議などで取り上げ運営に反映するよう検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での異動はあるものの、離職は少ない。管理者は職員と話す機会を定期的に設け、離職に至らないよう配慮している。職員異動の際は、ベテランの職員がかかわり、できるだけ利用者へのダメージを与えないよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やスキルアップ研修などを行っている。施設独自の研修として、法人間で、利用者体験研修などを行うなど、スタッフの立場に応じた研修を行っている。また、外部研修にも参加しており、経費についても事業所で負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修として、利用者体験研修があり、他のグループホームで1日利用者になって過ごしている。利用者の体験をすることにより、様々なことに気づくことができる。また、他ホームとの交流を通じて、サービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを密にすることで、利用者の得意なことを知り、利用者の力が発揮できるような場面作りをしている。スタッフも利用者から学ぶことも多く、お互いに支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から、今までの生活歴を聞くことから始めている。話を聞く中で、利用者の意向や希望が把握できることがある。困難な場合は家族からも話を聞き検討している。利用者の体調や希望を確認しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や要望を把握し、ケース会議、スタッフ会議で検討し介護計画に反映させている。個別ケアには家族の協力も大きいことから、家族と話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング以外にも、状態に応じて、期間にとらわれず随時ケース会議を行って対応している。入院など状態が悪化した場合は、医師にも相談するなどして、現状に即した計画作りに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医での受診は継続しており、通院は家族の協力を得ながら行っている。また、事業所での通院介助も行っている。さらに、往診を行ってくれる医師の協力も得ながら、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、家族とは個々に話し合いをし、希望を確認している。状態が変化した場合は、かかりつけ医師と相談し、指示を受けながら、家族と相談して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については入社時に守秘義務について周知徹底している。利用者が不快感を抱くことの無いようにマナーやモラルについても意識向上を図っている。日頃の言葉使い等についてもマナー月間を設けて意識的に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮しながら、職員間で一人ひとりのペースを共有し支援している。利用者には個別の日課があり、そのペースを大切にしながら、その都度声かけして希望にそった支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調や希望時間に合わせて支援している。献立は管理栄養士が立てたものを基本とはするが、献立、買い物、調理を利用者と協働で行っている。季節を感じられるようなメニューも取り入れ、利用者から助言をもらい調理方法などが工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は事業所が決めた時間や曜日で行うのではなく、利用者の希望する時間に入浴を楽しんでもらうようにしている。職員は利用者の羞恥心に配慮し、入浴が楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	個人の生活歴から、得意分野で能力が発揮できるように心がけ、協力してもらったときには感謝の気持ちを表して、笑顔のある生活ができるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	個人の希望を聞き、家族とも相談しながら積極的に外出支援をしている。知人宅や自宅に行ったり、買い物ツアーを実施したりしている。年間行事としては、日帰り温泉ツアーなどで戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も居室も施錠はされていない。職員はさりげなく利用者の動きを察知しながら見守り支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に夜間想定もしながら避難訓練が実施されている。運営推進会議でも協力を要請したりして、地域の人々の協力が得られるよう働きかけをしている。備蓄については検討中であった。	○	今後、備蓄などが備えられればさらに安心が深まると思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事の量や水分の摂取などチェックシートで確認をしている。利用者の体調や嗜好にあわせて、残さず食べられるように工夫しながら支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔なリビングで、その時の気分で居場所が選べるようにいくつかのくつろぎスペースが用意されている。季節に合わせた飾りや花が活けられ、大きな窓からの景色は季節を感じる事ができる。菖蒲湯や柚湯にしたり、桜餅・柏餅などを手作りしたりして季節感を味わえる工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には一人ひとりの使い慣れた物があり、自由にくつろげ、プライバシーも保たれている。居室のトイレや洗面所も清掃が行き届いており、利用者が居心地よく過ごせるようになっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームみやま

記入担当者名 濱津 美子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。